

平成29年度 綾瀬市立城山中学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
自立する生徒 ～ イメージ豊かに創造しよう ～ ・意欲を持って学習する人 ・正義を重んじる人 ・共に生きる人	○ 学校運営組織を活性化させ、指導体制の強化・充実を図る。 ○ 校内研究や校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。 ○ 積極的な情報提供や収集を充実させ、家庭や地域との連携を図る。 ○ 施設・設備を充実させ、教育環境の整備を図る。	
今年度の重点目標		
◎ 豊かな人間関係を築かせる。 ◎ 主体的な学習態度を身につけさせる。 ◎ 望ましい生活習慣を身につけさせる。		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「意欲を持って学習する人」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	グラフを見ると、約9割の生徒や教職員が「授業に意欲的に取り組んでいる」と評価しており、授業を大切にしている姿勢がうかがえます。また、保護者の評価も8割となり、昨年度より若干高い評価となりました。次年度も、生徒が主体的・対話的に学ぶ授業づくりと家庭学習の啓発を大切にし、さらなる学習意欲の向上に努めていきたいと思います。
2 教育課程	生徒は、学校行事や生徒会活動・部活動に積極的に参加している。	アンケート結果から、昨年同様に生徒・保護者の多くが「積極的に参加している」という評価が得られました。本年度、例年より少ない練習時間であったにも関わらず、生徒たちは互いに創意工夫し、協力を重ね、充実した学校行事を作り上げました。3年生が優れたリーダーシップを発揮し、下級生とのよき人間関係を築くことができた点は、本校の誇りと言えます。
3 児童・生徒指導	学校は、「共に生きる人」を育てる指導を積極的に行っている。	アンケートでは9割を超える生徒が友人に対して思いやりの気持ちを持って接していると答えています。また、保護者も同様の認識を持っています。この結果は、教職員の日常の取り組みはもちろんのこと、各家庭において、生徒と保護者が思いやりの気持ちを大切に育んでいることの表れであることが伺えます。次年度は、生徒全員が豊かな人間関係を築くことができる教育活動を展開していきたいと思います。
4 児童・生徒指導	生徒は、友人や先生との学校生活に満足している。	アンケートでは、9割以上の生徒が「学校生活を楽しく過ごしている」と答えていますが、「学校生活を楽しく過ごせていない」生徒が、本年度も約1割いるということを学校として重大に認識しています。 生徒一人ひとりに寄り添った指導、生徒同士の関わりによる充実した活動など様々な工夫を重ね、生徒の気持ちを大切にしたい教育活動を行っていききたいと思います。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	アンケート結果から、保護者と教職員では取組に対する評価に大きな差がありました。昨年度同様、およそ4割の保護者が、学校の取り組みが十分ではないと捉えています。学校では休み時間等の巡回、トラブルの早期発見・早期対応、そして道徳授業の充実にも努めておりますが、生徒と保護者がより安心できる環境づくりを様々な方策を通じて目指していく必要があります。

6 保健管理	学校は、「健康な心と身体を育む」指導に積極的に取り組んでいる。	生徒・保護者・教職員に意識の差があることが結果から伺えます。8割の生徒が心と体の健康に関心を持っているという結果に対し、保護者は家庭における生活の様子などから、心配な点がある様子が伺えます。道徳教育と読書活動の推進による「心の健康」と綾瀬市の取り組みでもあります「四点固定」による体の健康を目指し、健やかな心身を持つ生徒の育成に努めていきたいと思ひます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、生徒の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	避難訓練については、次年度以降、様々な状況を想定した訓練を行い、有事における実践的な判断と行動ができるよう計画しております。また、防災教育の充実も合わせて行っています。 また、生徒が安全な学校生活が送れるよう今後も施設の点検・整備を計画的に行い、問題点などの早期対応に努めていくことを心がけたいと思ひます。
8 支援教育	学校は、生徒に応じた支援の工夫をしている。	毎週1回、関係職員が生徒支援会議を行い、生徒のニーズに合った支援の在り方を検討しております。しかし、個々の生徒のニーズに合った支援の形は様々で、すべてにおいて適切に対応できているかという点では、まだ課題があります。今後も支援教育に対する教員全体の資質を高め、生徒が充実した中学校生活を送れるよう、保護者とも連携をしながら取り組んでいきたいと思ひます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	全職員が「職務が円滑に遂行できた」と回答しています。このことは、校長・教頭の学校経営方針とリーダーシップがしっかりと各グループに伝わっていることの表れだと思われまひます。また本校は若手の職員が多いことから、職員間の連絡を密にし、次世代のリーダーを育成することも大切にしています。本年度の各グループから出た反省を活かし、次年度もよりよい学校運営を目指していきたくて考えています。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今年度は、同じ教科を教えるメンバー5つの班を作り、生徒が知識を実践的に活用する授業づくりを行いました。本校の生徒は学習意欲が高く、特に知識の習得や理解に優れた力を持っています。その強みを活かし、知識を活用した課題解決力を高め、社会の変化に対応できる生徒の育成を目指しています。次年度も、研究・研修を充実させ質の高い授業づくりに取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、生徒の実態を把握し、よりよい生徒の成長のための工夫をしている。	保護者の3割は「指導の工夫をしている」とはあまり思っておりまひず、教職員との意識の隔たりが感じられます。「自立する生徒」の育成に向け、生徒それぞれの個性を把握し、伸長させるよう努めていきたくて思ひます。また、生徒が自ら考え進んで行動できる資質能力の育成を、学校の教育活動に取り込んでいくことも重要であると考えています。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	保護者の6割が学校の情報が分かりやすく伝えられていると評価していますが、職員が思っているほどには情報が伝わっていない実態が上のグラフから読み取れます。各学級で「たより」をしっかりと持ち帰ってもらう指導を今後も行っていくことだけでなく、保護者や地域と連携を密にし、より開かれた学校づくりを目指していきたくて思ひます。

【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】

- 学校運営に関しては、学校教育目標のもと組織的に円滑に業務が進められ、生徒たちの様子からも学習や学校行事、部活動などへの取り組みが活発に行われていると感じる。
- 図書室が利用しやすい環境になったので、今後もこの状態を継続し、読書活動の更なる推進と図書室の活用に努めてほしい。
- 防災教育については、災害ネットワークの活用も視野に入れることで、より効果的な指導ができると思われる。
- 学校と保護者の密な協力体制に向け、情報発信だけでなく、保護者にとって学校が身近に感じられるようになることも大切である。
- 部活動は、健全な生徒の成長を図るうえで欠かせない。しかし、教員・生徒・保護者の間に部活動に対する考え方に違いがあるように感じる。今後は、市全体で部活動のあり方を見直し学校運営の合理化を図る必要があるのではないかと。